

平成 29 年度第 1 回砂岩分科会 講演会のご案内

下記の要領にて講演会を開催致します。

記

日 時：平成 29 年 9 月 1 日（金）15:00～

場 所：国際石油開発帝石(株) 赤坂 Biz タワー36 階セミナールーム

話 題：河川～デルタ成砂岩貯留岩（詳細は次項を参照）

*講演会参加には、事前登録が必要です。

参加希望の方は、**8月18日（金）までに**、砂岩分科会座長までご連絡ください。

登録された方には、後程、赤坂 Biz タワーより入館に関するご案内を致します。

**講演会終了後、会場近傍にて懇親会を開催致します。

懇親会の出欠も併せてご連絡頂けましたら幸甚です。

砂岩分科会座長

江川浩輔（国際石油開発帝石(株)／kosuke.egawa@inpex.co.jp）

戸田数馬（石油資源開発(株)／kazuma.toda@japex.co.jp）

以上

■ 講演 1：河川成砂岩

講演者：佐藤隆司氏（国際石油開発帝石）

演題：陸成層における堆積相のコントロール要因と河川成砂岩レザバーキャラクターゼーション：ユタ州に分布する始新統河川～湖沼成堆積物の露頭アナログの獲得と石油探鉱開発への応用

要旨：陸成層の堆積シーケンス形成には、グローバルな海水準変動よりも、上流側の複合的な外的要因（テクトニクス、気候、河川流量、後背地、地形）が強く影響するため、堆積相分布の成因論的な解明は非常にチャレンジングである。近年、世界各地のリフト/湖沼堆積盆において河川成砂岩や湖沼成砂岩または石灰岩をターゲットとした石油探鉱が脚光を浴びる中で、これらの堆積盆における堆積相分布およびレザバー性状のコントロール要因解明は非常に重要なテーマとなっている。ユタ州東部ユインタ湖成堆積盆に分布する始新統河川～湖沼成堆積物（ユインタ層～ドゥシェーンリバー層）は、堆積盆の広範囲にわたって良好な地表露出を呈しており、(1) 堆積盆スケール（150~200 km）での堆積相分布と砂岩量および性状の把握、および (2) フィールド（油ガス田）スケール、つまり開発井スペーシング（1~2 km）規模での砂岩体ジオメトリや連続、連結性の把握に好適な研究対象である。今回の講演では、これらの2つのスケールで陸成層シーケンス、とりわけ河川成砂岩レザバーを捉え、石油探鉱開発事業に適用可能な露頭アナログ情報の獲得事例として紹介する。

■ 講演 2：デルタ成砂岩

講演者：齋藤文紀氏（産業技術総合研究所地質調査総合センター 首席研究員／島根大学エスチュアリー研究センター センター長・教授）

演題：デルタにおける砂分布：特に潮汐卓越型デルタの特殊性について

要旨：デルタは、その主要な営力から、河川・波浪・潮汐の3つを端成分にとった三角ダイアグラム（Galloway Ternary Diagram）で表示されることが多い。これら3つの営力の卓越したデルタ中で、最も複雑で、研究が遅れているのが潮汐卓越型のデルタである。近年、現世における潮汐卓越型デルタの研究、特に現在の堆積作用と堆積相に関する研究が行われるようになり、その特殊性が明らかになってきつつある。他の2つ営力の卓越するデルタとどのように違うのか、最近の研究例から紹介する。